

酷暑の中で起きている深刻な事態—熱中症で死は身近に

今年の夏は昨年より更に暑くなりました。地球温暖化の今、これから先もこの傾向はどんどん進むことでしょう。この気候変動はわたしたちに様々な形で悪影響を与え続けることは間違いありません。しかし、個人がそのような中で防御できるのは限られています。

とりわけ直ぐにできるのは熱中症の危機を回避することです。

東京監察医務院は東京 23 区の今年の 7 月の熱中症疑いの死者を 123 人（速報値）と公表しました。その 123 人のうち 121 人が屋内で亡くなっています。そして 121 名のうち「エアコンはあるが未使用であった人」は 79 人。「エアコン無し」が 28 人でした。

多くの方が暑い室内で知らぬうちに体調を壊して取り返しがつかぬことになっているのです。

高齢者のみなさんのお宅を訪問すると「この環境、いいのかな？」と心配になるおうちが多数この地域でもあります。

ホームヘルパーもこのようなご家庭で業務を行う中、体調が悪化する事例もあります。

ぜひ、皆さんにおかれましてはご自身と援助者の健康を守る為に室内環境の改善に工夫をお願いします。

とはいえ、エアコンを持たないご家庭は経済事情から「購入したくともできない」ということもおありでしょう。

命あつての物種です。入手の方法を考えてみます

厚労省の通知にはこのように記載されています。

まずは生活保護利用のかたについて

「①保護開始時に持ち合わせがない場合、②災害により喪失し、災害救助法（昭和 22 年法律第 118 号）等他

制度からの措置がない場合、③犯罪等により被害を受け、生命身体安全確保のため新たに転居する場合で持ち合わせがない場合などの特別な事情がある場合に限り、67,000 円の範囲内において、エアコンの購入費用を支給することを可能」としてありますので積極的に活用しましょう。

1. 生活福祉資金の借り入れが可能な方もいます。

社会福祉協議会の貸付金は無利子、あるいは低利で購入費の貸し付けが可能な方もいます。

窓口は市町村の社会福祉協議会です。

命を守る施策を自治体は創設すべきです

全国各地で命の危険にさらされている高齢者などを守る為に自治体独自でエアコン設置を支援する市町村が増えています。

その自治体をみると乙訓よりも遙かに貧しい財政状態とおぼしき自治体がエアコン設置を支援しているのです。乙訓 2 市 1 町でもやる気になればやることは間違いありません。大きな世論形成でこの地域でも実現したいものですね。

参考

東京都練馬区の実施要項

自宅に冷房機能を使用できるエアコンが 1 台もない、または故障等で 1 台も動かない状態で、下記のいずれかに当てはまる世帯。

1. 世帯員全員が、住民税非課税。
2. 児童扶養手当を受給。
3. 生活保護を受給中。

※過去に本事業による助成を受けた世帯は対象となりません。

助成上限額

105,000 円

(内訳)	エアコン本体	67,000 円まで
	設置工事	38,000 円まで



有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイソ東台101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com

きょうと福祉倶楽部ホームページ

